

いなづま

発行所 函館地方電気工事業協同組合

住 所 函館市新川町99番地

編集人 荒井孝一

印刷所 有限会社 豊国堂印刷

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

R -
-
-
-
-

の月か和詠

陽東福壽水

一
一
一
一

おつ詩あやし

卷之二

「発刊のことば」



理事長 小寺 寛一

「新年おめでとうございます。」
組合員皆様の要望にこたえて此の
度、「いなづま」を機関紙として
発刊する事に相成りました。何事
によらず新しく創り始めると云う
ことは幾多の困難がともないます
「いなづま」と云う名称も種々検

討の末、名付けました。私共を身近に感じさせる立派な名称、だと思います。呼々の声を揚げた「いなづま」は、儀礼、形式にとらわれずおざなりな俗物にならぬ様に、組合員皆様の声を忠実にお伝えするとともに、新鮮味の溢れる、何人が読んでも面白く又楽しく、親みのもてる「いなづま」にする様に心掛けております。愛読者の無い刊行物程、くだらぬものはございません皆様に愛されるものにするためには、必然原稿が問題でございます。皆様方の絶大な支援により、広く原稿の投稿をお願い申し上げます。

北海道で始めての企画である「いなづま」を末長く繁栄させようではございませんか。

最後に「いなづま」刊行に当つて、種々ご面倒を見て戴きました委員の皆様方に、深く感謝を申し上げ、発刊のことばと致します。

〔祝 辞〕



北海道電力函館支店

支店長 船山友夫

明治百年、開道百年の輝かしい新年を迎え、こゝに組合員各位が久しく待望しておりました機関紙が、めでたく発刊の運びとなりましたことは、洵におめでたく、心からお祝い申しあげる次第であります。

電気が国民生活に、また産業のあらゆる分野に果す役割の重大さを考えますと、組合員各位と私どもの結びつきを一層強固なものとし、相互理解の度をますます深めてゆくべき必要性が痛感されるわけでありますが、その意味で機関紙の誕生は正に時宜を得たものであり、よく陣痛の苦しみに耐えてこゝまで取運ばれました理事長以下各関係者の決意とご労苦に対して心から賛辞を呈するものであります。

この機関紙が、業界の信頼されるPR紙として、また組合員各位の意思疏通の場として永く活用されるものとなりますことを切望いたしますとともに、組合のますます発展いたしますことを念願し私のご挨拶といたします。

＝永年勤続者表彰式＝



○永年勤続者表彰式について

第二回表彰式は昨年11月23日の勤労感謝の日を以て、午後1時より共愛会館に於て、矢野市長以下来賓20余名を迎えて、受賞者十年以上20名、十五年以上6名、出席のもとに挙行されました。

当日来賓の市長、会議所会頭及小寺理事長等が、祝辞として述べられた事項で、共通して強調されたことは、今日の表彰を受ける迄、会社の上司、同僚、部下将又お家族の方々の並々ならぬご支援があることを忘れないで欲しい。皆様が常に健康に留意して、夫々職務に精励したことは勿論、一番お目出たいことであり、嬉しいことである。今後とも一層精励下さい。ということでありました。

青少年従業員、訓練生諸君も大いに先輩の顔をつぶさないよう努力してもらいたいものと思います。

(樺電、中村哲也君の答辭にも責任ある業務の遂行について、決意を述べてありました。)

••・組合だより•••

昨年は色々な事故が発生し、その都度理事長より注意の喚起がありました。緑十字の青旗を、毎月一日、十五日の安全日に車輪社門等に掲げることになつておりますが、この機会を活用し、充分に安全意識の高揚に、夫々工夫をこらして努力して戴きたい。

従業員の仕事の際の服装が、一般大衆の面前には見せられないようなのが散見されます。帽子については、組合制定の帽子を着用して、訓練生は、訓練所制定のものを使用して下さい。配色については、目下役員会で研究中です。之も安全を確保することに無関係ではありませんので、更に作業服の改善と相俟つて、日々服装に充分注意するよう切望します。

標準料金については、去る五月開催の総会の席上、詳しく述べて戴いたつもりですが、甚だしきは、千円内外のものが相当あるように決論づけられます。之は自分で自分の首を締めることになりますので、標準料金制度の主旨を再考の上、之を遵守するようお願い致します。

○新年の行事について

一月二十六日、午後五時より「大和」に於て、「工業組合調整規定」の説明を事務局より、六時より、北電支店長を招待の上、新年の懇親会を催します。(会費一人、千円也)是非ご出席下さい。

二月中旬には、青色申告説明会(税務署員)三月初旬、経営懇談会を開催の予定です。尚、一月二十八日は、技能訓練協会主催の、技能オリンピック地方大会を、当市に於て行ないます。訓練生諸君の奮起を期待します。この折は、公開訓練を兼ねて新聞社、官公庁、他の業種の方々を招待し、電工科の仕事の内

気儘一杯。我儘一杯では、永く一職場に勤め責任を果すことは出来ません。人生は忍耐なりと申されています。何時までも神は、苦しみをあなたには与えません。幸福なる彼岸に達する人は、常に絶えない努力をする人であります。

若人より努力せよ以上が、永年勤続者の表彰式を迎えるたびに痛感する事柄です。

青少年従業員の一層の奮起を祈つて止まない次第であります。

受賞者は次の方々です。

勤続10年以上

(北) 弘電社函館営業所	伊藤孝一・佐藤初治
タマツ電機商会	鈴木 昭・伊東昭二郎・西館信夫
三興電機株式会社	千田由次郎・荻生 実
太陽電気工業所	板谷省三
協信電気工業株式会社	道下 勇・佐藤悌史
樺電工業株式会社	平沼浅吉
工藤電気商会	内藤俊男
日本電設工業株式会社 函館支社	当山利雄・佐藤八郎・田村金蔵
共栄電気工業株式会社	中川末子・長谷川照明
中野電気商会	釜沢定四郎・佐々木力
山崎電気商会(長万部町)	松本昭一

勤続15年以上

(北) 弘電社函館営業所	斎藤 博・朝田省三
昭和電気工事有限会社	磯木 進
巴電気工業所	田中時善
樺電工業株式会社	中村哲也・細野晃弘

以上の方々であり、尚当日「電気工事士養成施設」の通産大臣指定を受けたことについて、功労者として次の三氏が表彰されました。伊藤幾郎氏・熊谷浩四郎氏・岡田昌介氏に対して心からお祝いを申し上げます。

(横田)

容を理解してもらう機会と致したいと念じ、目下準備中です。

子メーターについて 20、10アンペアの子メーター三十箇、組合にあります。格安となつていますので、ご利用下さい。

三水会について 凡そ三ヶ月に一回、北電との会議を持つていますが、この会議に提出を希望する案件をお持ちの向は、毎月20〆切で事務局に提出下さい。役員会で検討の上、適当なものは北電と交渉します。

○職業訓練所より 一月十二日は午後より講師指導員合同会議を開催し、新年的訓練実施の細部を打合せる予定です。二月一日より、各年次一齊に学年末の授業訓練に入ります。一年間の反省点検のときですから、休まずに最後まで頑張つて下さい。二月より毎月、個人毎に連絡票を事業主の方々に送付しますから、緊密な連絡の下に、十分訓練効果を發揮出来るよう、お互に努力したいと念じています。

尚「電気工事士養成施設の指定」を通産大臣より受けましたので本年三月末までに所定の単位を履修し、出席率も所定の時間に達した者には、「電気工事士」修了証明書を交付します。之は道知事より「工事士」の免許証を受ける、唯一の証拠書類となるものです。又「訓練生の心得」を定めましたので、自ら進んでこの心得を守り、立派な社会人、優秀な電気技術者となるよう、夫々先輩各位のご指導とご協力を願い上げます。

最後に工業組合の状況について簡単に要約して申し上げます。

目下仙格の件、下請制度の制限の件、工事契約の件、工事台帳の件などを定める調整規定の原案について、理事会事務局長会議で詳細に検討中で、一月二十六日の集会の折、大要をご説明致す予定であります。之は二月の総代会及総会において決定をみれば、道序を経て通産省に提出され、公正取引委員会の同意を得なければならないことになつておりますが、相当長期間を要するものとされています。新年初頭は、全道の理事長が集合し、最終的決論を出す予定であります故、組合員皆様の真摯なる、ご協力を願いして止みません。

(横田)

【組合員の横顔】

「直径二米半の独逸製レンズを装備した、当時最新式の探海灯を操作して東京湾上を照射するのですが、監視員は潜水艦の航行を発見するには苦労した様で、当時既にリモコン方式を採用して遠隔制御をして居りました。」

早坂さんは、静かに語つた。

宮城県の出身 天正年間旧制古川中学校を四年終了後直ちに志願して、技術幹部候補生養成機関である、横須賀の陸軍射撃学校の電気科に入学、探海灯の電気関係実地訓練に励む傍ら電気理論を学び、軍曹として卒業除隊後直ちに三種電気主任技術者資格試験に合格という変った経歴を持つ

早坂さんは、北電の前身たる函館水電に入社、大沼発電所を振り出しに、配電係、福島、戸井、森各営業所を経て、抄師として昭和十九年退職され（北海電気工事会社を経て）戦後鶴岡町にあつた品沢電気の経営を引受けて現在に至る迄、約世半紀の間電気関係の仕事一途に打ち込んで来られた。

終戦前後の業界の模様を次の様に話して居ります。「戦争中の物資統制に依り、工事材料の調達等の関係もあり、市中の有志工事業者が統合して北海電気工事会社が設立され、私も入社しましたが、市内の業者としては他に三共・弘電社位のもので、其の後終戦に伴いこの会社も有名無実となり、二十二年頃には北電の認定業者としては六社位しかなかつたと思います。その後昭和二十三年十二月に函館地方電気工事工業協同組合が創立され、当時は確か十三・四社で弘電社の事務所の一部に間借りして発足したものです。」「趣味としては技術者の通弊として取り立てゝ云う程のものはありませんが、酒は少量、囲碁は発電所時代に覚えたのでザル碁に毛の生えた程度、七、八級ですが、スキーは横津岳等には何回も登り、競技会では若い人を負かして一等に入賞という事もあり、毎冬随分やつたものです。」

七十四才のお年とも思はれぬ血色の良い顔色で語られ、「お蔭で健康には自信がある」との事。奥さんは表千家の茶と、池の坊の生花を教えて居られ、各会社の出張教授や自宅に於ても若い娘さん達を相手に多忙な日々を送つて居られ、「女が年をとつてからも仕事があつて毎日忙しく動いているというのは、嫁の悪口が出なくて家庭円満には良いことだね。」自宅は杉並町の桜庭紙店の横通りで、三十年來の居住で、附近では草分け的存在です。

(駒井 吉田 記)

組合員だより

森地区的顔（森町及周辺）



白いペールをまとひ、内ふところには、大沼、小沼を抱きかかえ、山裾は広く長く、噴火湾を見下ろし、静かなる昭和四十三年の新春を迎えた駒ヶ岳の秀峰を眺めつゝ.....

此の度組合公報が発刊され、組合員だよりの一編として、組合員の声支部の姿等を紹介し、組合員相互の親密を図かる場とすることになりましたので第一回の地区の顔として森地区を探

つてみました。森町に谷電気工業所・谷義一氏、香田電気工事店・香田稻生氏、水口電気工業所・水口輝雄氏、阿部電気商会・阿部貞夫氏、鹿部にきて中野電気商会・中野三吉氏、小林電気商会・小林清氏、砂原に高谷電気商会・高谷清氏、南茅部町に岡崎電気商会・岡崎盛之氏、石川電気商会・石川雄治氏、武市工業事・山名寿勝氏、大沼に安保電気商会・安保芳雄氏、の十一名の組合員が和気あいあいのうちに、噴火湾茅部海岸一帯に、活気にみちた事業を行なつているが明るい正月を迎えて、早春の仕

事にそなえて心身の休養につとめておるといったところです。こゝで簡単に地区の周辺を散歩してみると、駒ヶ岳は活火山であり、寛永十七年、安政三年、明治三十八年、大正九年そして昭和四年と五回も大爆発を起し、今も新旧二つの火口をかこんで、多くの小火口から噴煙を吹き上げていることはごぞんじのとおりです。冬期は一米余の積雪があり、頂上は永結してアイゼン、ピツケルを必要とされ、なかなかきびしい山であると、農家の老人は語つてくれました。また濁川、川汲、鹿部、大船、磯谷など静かな温泉があり、釣人には、茅部、木直海岸と最適な場所があり、自然を愛する人々には屏風岩フルベ大滝等の行楽地があることも自慢の一つであろう。紙面の都合で組合員の声を載せることができませんで残念に思います。真白い駒ヶ岳が暮色につゝまれて遠く遙かに消えてゆくのを見やりながら簡単ですが、紹介に替えるといつも思います。（工藤義一記）

◆ 43年度北電の動向 ◆

新しい年の北電の方針について営業と配電についてそれぞれ担当課長にお聞き致しました。

伊坂営業課長談。「公益事業である電気事業の使命は、生産活動と日常生活に欠く事の出来ない良質な電気を、長期安定料金をもつて豊富に供給し、地域社会に奉仕する事であり、此の事から対外的企業活動の柱となるものは、第一にサービスの向上である。サービスの向上の根本となるものは、いう迄もなく、良質な電気の供給である。電圧、周波数の正常な停電のない電気を送る事であつて、当社として遂年設備の改善、強化が実施されているが、全電力会社的レベルに迄は、いまだ若干の距離があるや聞いている。

特に当函館支店の管轄区域である渡島半島地帯においては、地元電源は出力僅少であり、管内需要電力のほとんどは本道中央部からの遠距離送電に頼つてゐるが、この電源系統の電圧保持、事故対策等については、一層の配慮と積極的な推進の必要がある。又広汎な管内は辺地地帯が多く、古くに開けたがその後の開発進展がおくれた地域、いわゆる先発後進地域の姿が隨處に見られ、従つて需要に

◆ 創刊号おめでとうございます！

直結供給の責を負う配電設備についても、その改善充実の点でなおもの足りないものが感じられる。これら電気供給設備の改善と強化、充実なくして当支店管内における根本的サービスの向上は実現されないのである。支店長以下全員が、あげて重大な関心を持ち、それぞれの持場で努力を傾注しているところである。電気事業界と北電との関係は、電気事業運営の車の両輪にたとえて云はれるが、まことにそのとおりで、栄枯盛衰を共にする運命関係にあると思う。

電気事業界と当社とは、現在は勿論、今後とも最も緊密な協力関係を保ち、共存共榮の精神で進むべきである。どうか当函館支店管内全工事業者の方々におかれましては前述のような当社企業の基本的理念と管内事情を充分に御理解の上、電気事業のサービスの向上について絶大なる御協力を切にお願いするものである」と結んだ。次に、小野課長からは、配電関係に就いて、「電気は、我々の日常生活では、不可欠のものとなつてゐる事は御承知の通りでありその電気を一戸づつの使用個所へ直接伝えてゐる施設が配電線であり、屋内配線であります。即ち電気の使用者にとつても最も密接な関係にあり、停電或は電圧低下による影響は極めて大きくなつて來ました。現在配電として最も力を入れている事は、「停電の回避」と「電圧の保持」更に「新設需要家への早期送電」であり、当社としましては、莫大な資金を投入して配電設備の体質改善に努めて居ります。それらの工事はすべて皆様の手によつて、進められて居り、電気についての社会からの大きな要望は、皆様の手によつて、達成されている次第です。それだけに皆様の工事に際しての、心構えが大切になつて来ます。例えは、停電を少くする為の開閉器の増設工事、或は電圧改善の為の張替工事などについて、一ヶ所に接続不良個所があつたとすれば、やがて事故停電となり、工事の効果は零になつて仕舞います。配電工事は、数も多く、それだけに手数を要しますが、一つ一つ確実な仕事を積み重ねて戴きたいと思います。

内線について、一本のビスのゆるみが、電気出火に結びつく場合もあります。同時に留意して欲しいことは、安全作業の確立です。今年も、管内で感電或は墜落事故がありました。幸い大した事もなく不幸中の幸でしたが、一寸した不注意から怪我をしたり、死亡したりする重大な災害が各地に発生していますので、自らの身を守る為、充分に注意して戴きたいと思います。電気事故だけでなく、交通事故も多発して居ますので併せて注意する様、お願ひ致します。今後配電工事は益々増加する見込ですから、皆様の仕事は、益々忙しくなつて来ると思います。増大する工事量をどうして消化してゆくかと言う事も、今配電としての重大な問題となつて居ます。電力会社も、事業主の方も、更に直接仕事に携る方も、今後の配電工事をスムーズに進め、設備の改善を計る方法を真剣に考えなければならぬ時点に立ち至つているのが、現状だと思います。

現在配電部門として解決して行かなければならぬ問題は以上の他にも数多くあります。いわゆる、配電近代化問題として大きく取り上げられている事項として「信頼度向上」「電圧維持」「自動化」「無停電作業」「事故停電の極少化対策」「工事の機械化」「活線作業の推進」等々の問題があり、しかも早急に解決を迫られている事ばかりです。此の為当支店としても実状に即した形での長期工事計画を策定して、その実をあげる事を期して居ます。明年以降いろいろな形での配電関係の問題が発生して来ると思いますが、すべて工事業者の皆様の御協力を得なければ解決出来ない事項ばかりですので、一層連絡を密にし、一体となつて配電部門の体質改善を推進して行き度いと考えておりますので、充分な御理解と御協力を願います」とのお話しだす。(佐藤輝記)

—— 安 全 ——

お客様は王様と云ふことは昔から云われているが、現代の社会では、王様同様に女王様も必要なのです。健全な王様には、健全な女王様が、必要不可欠です。(安全の二字をそれぞれ分解して安から「宀」と全から「亠」を取ると女王が残るでしょう。) 皆さん今日只今から王様と女王様を大切にして仕事をしてゆかうではありませんか。人身事故は勿論工事上の事故も充分今年は注意致しましょう。

昨十二月十四日、午後三時頃、七重浜にて電柱移設工事施工中、地下二米位の所をくつさく中電話ケーブル線を切断し、八雲~今金方面の電話が不通となつた事故があり、電話が約二時間程度停りました。此の様な事は今から十二、三年前にも当別で

あり保償問題等の重荷が業者の上にのしかかります。今回の事故も保償問題が、なるべく軽くなることを願うと共に今後工事施工にあたつては充分注意致しました。(荒井記)

【組合の慶弔についてお知らせ】

○年度初頭において光生電気商会鈴木忠氏が軽い脳溢血で一時入院加療し只今自宅療養中。

○五月に岩越電気商会岩越寛氏急病に依り他界されました。尚後任は実弟岩越信氏が就任しました。

○組合の業務に格別の御協力を頂きました大島三郎道議は四月に病氣の為急死されました。

○七月に至り旭電気工業所佐藤輝夫氏父治三郎氏が病氣の為逝去されました。

○中野電気商会中野三吉氏妻まさ様の為逝去されました。

○奥村電気商会奥村幸男氏実母すみえ様の為逝去されました。

○十月共栄電気工業松永敬造氏、乙部電気工業所今井三郎氏共に脳溢血の為逝去されました。

○九月には友誼団体である函館地方電機商工業協同組合の創立式1周年記念行事が五島軒で開催されました。

○昭和四十三年は当組合創立二周年にあたりますので記念行事が計画されて居ります。

★編集後記★

「いなづま」の発刊は、組合員相互の心の触れ合いの「場」となつて始めて、その意義を持つ。組合員の公的活動たると、私的生活たるとを問はず、相互の交流が「いなづま」を通じて、より強く、より深く生れるならば、この機関紙の存在価値は大きく、使命は重い。

懸命に生きようとする生活には、スマートさ、は必要としない。野暮臭い、田舎臭い、幼い工事業者の、体臭を、むんむんさせながら、精一杯自己主張する我々組合員の「生の声」を、公正に、堂々と絶叫する機関紙「いなづま」になりたい。

創刊号は、その性質上、多少形式に過ぎましたが、次回より、全編集委員は型にとらわれず、型破りの「在り方」を標榜としますので、奮つて投稿下さい。

「組合員の横顔」は業界の最長老者である品沢さんを、トップバッターに御願いしました。次回の「横顔」に、どなたかを推薦下さい。(猪股記)

◆ 創刊号おめでとうございます!!